

ほろっぴん

321 水分補給



大崎短歌会

兼題「別れ・自由」

衣更着や蕾綻び梅かほる
夢膨らみて旅立ちの頃
牛飼いを止めたる媼の牛小屋に
くぼみ深しや研石の一つ
「じゃー又ね」だなんて軽く別れ来た
友の死飛び込む真夜のラインに
冬枯野風に吹かれて薄の穂
春を待つのか花穂も揺れて
音楽と猫と家族に熱かりし
君逝きたまふ睦月半ばよ
満開の緋寒桜は横に伸び
椿の花と競い咲きする

井元かず子
本後淑子
山下海征
実吉安仁
上南紀子
坂元つる子

薩摩郷句

兼題「おてちき」

龍昇る元朝に遇ひ和みしを
地震の襲ひて嘆きの夕べ
一人居に遠慮いらすと声上げて
テレビの字幕しつかりと読む

馬場みさ
穂園芳江

五月晴れ 幟やおてちき 風を飲つ
(唱) 天ぬ堂々 曾孫ん鯉幟
遠矢耐多

若け頃い おてちき使た 金に後悔
(唱) その日暮らしの 辛抱ん毎日
長重リリー

入試翌日け おてちき寝れち 親愛情

(唱) 今日どまゆつくい 寝せちよけち両親
北村虎王

裏金を おてちき貰つ 記憶き無し

(唱) 忘れた真似も 苦し事じゃろ
上村牛歩

和ち風ん 故郷をおてちき 吸つ帰つ

(唱) リフレッシュした さあまた頑張ろ
諸木小春

泣つ笑つ 昔しゆおてちき 婆の年忌

(唱) 親ん苦勞どが 今身い染みつ
西ノ園ひらり

バイクン グ おてちき食たや 救急車

(唱) 欲と二人で 少と食過ぎつ
一見愚楽満

夫婦喧嘩 おてちき言たや また弾ん

(唱) 何ゆ吐やすかち 茶碗皿が飛つ
満石うらら

税金ぬ おてちき使こちや しれつたん

(唱) 何に使こたか 都合良忘れつ
藤元鬼瓦

憂さ晴らし おてちき笑るた 今日郷句会

(唱) ひっ飛だもやもや 楽しか郷句会
上窪小絵